# 令和 7 年度

# 自己点検・自己評価報告書

学校法人 河合塾学園
トライデント コンピュータ専門学校

令和 8 年 6 月 30 日作成

# 令和 7 年度　自己点検・評価について

学校法人河合塾学園トライデントコンピュータ専門学校は、昭和 59 年の開校以来、30 数年に渡り愛知県認可の専修学校として、いわゆる IT を根幹とする知識基盤社会に貢献しうる優秀な人材を輩出してきた伝統校であると自負しています。IT 分野の技術進展は「日進月歩」ならぬ「秒進分歩」であり、常に新しい発想や技術を学校教育の中に導入していかなければなりません。とどまるところのない技術革新とその教育への反映、教育手法・教育効率の研究を第一義に置いてきたこれまでの本校の姿勢を、今後も変わることなく IT を志す若者たちに伝えていかなければならないと考えています。

さて、最近、教育機関の社会的責任が大きくクローズアップされていますが、本校もその大きな責任の一端を果たすべく、教育機関としてのスタンス、教育の中身・レベルと教育貢献に対する認識および評価、学校としての基本的遵守事項などについて点検・評価のうえ、令和 7（2025）年度の自己点検・評価報告書として報告いたします。

点検項目については、おおむね「専修学校における学校評価ガイドライン」(平成 25 年 3 月　文部科学省生涯学習政策局)に準拠しています。点検の実施にあたっては、校長を委員長、各チーフほかを委員とする委員会を構成して、点検・評価を試みています。

自己点検・評価の本来の目的は、「自校を客観的に観察・評価して改善点を見いだし、よりステップアップした教育機関への成長の一助とすること」であり、ひいては、他校には見られない自校の特長を確認し、それを洗練させて特色ある学校づくりへの取り組みの契機とすることであります。

ここに、本校本年度の自己点検・評価記録をまとめる取り組みはいったん終えることができました。今回の自己点検・評価を手がかりの一つとして、個々の教育内容・取り組みなどをあらためて検証して、さらなる教育ノウハウを蓄積してゆく所存です。また、今後行われる第三者評価に向けても委員会メンバーはもとより、本校教職員スタッフ・関係者を始め、学生や父母等、地域の方々、あるいは、企業や各関係団体のご協力やご指摘が不可欠と考えています。忌憚のないご意見をいただいて、今後の改善につなげていくことができればと念願しています。

令和 8 年 6 月 30 日

学校法人　河合塾学園
トライデントコンピュータ専門学校
学校自己点検・評価委員会委員長
中原　千賀子

# 目　次

**0. 重点項目**

0-1. 募集早期化への対応

0-2. 新校舎を活用したブランディング強化

0-3. 学生満足度アップ（授業満足度 1:45%以上）

0-4. 教育成果（コンテスト、資格取得）によるブランド力向上

0-5. 就職率・業界就職率の目標達成

0-6. 企業との連携強化による教育力アップ

**1. 教育理念・目標**

1-1. 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか （専門分野の特性が明確になっているか）

1-2. 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・父母等等に周知されているか

1-3. 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか

1-4. 学校における職業教育の特色は何か

1-5. 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか

**2. 学校運営**

2-1. 目的等に沿った運営方針が策定されているか

2-2. 運営方針に沿った事業計画が策定されているか

2-3. 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか

2-4. 運営に関わる会議（教職員会議、教務会議等）は定期的に開催されているか

2-5. 人事、給与に関する規程等は整備されているか

2-6. 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか

2-7. 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

**3. 教育活動**

3-1. 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか

3-2. 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか

3-3. 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか

3-4. 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか

3-5. 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れてるか

3-6. キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか

3-7. 授業評価の実施・評価体制はあるか

3-8. 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか
3-9. 基準に基づき適切に成績評価、進級、卒業判定を行っているか
3-10. 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか
3-11. 資格・免許取得の指導体制はあるか
3-12. 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか
3-13. 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保・育成するなどマネジメントが行われているか
3-14. 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか

**4. 学修成果**

4-1. 就職率の向上が図られているか
4-2. 資格取得率の向上が図られているか
4-3. 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
4-4. 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか

**5. 学生支援**

5-1. 進学・就職に関する支援体制は整備されているか
5-2. 退学率の低減が図られているか
5-3. 学生相談に関する体制は整備されているか
5-4. 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか
5-5. 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか
5-6. 学生の健康管理を担う組織体制はあるか
5-7. 学生の生活環境への支援は行われているか
5-8. 課外活動に対する支援体制は整備されているか
5-9. 学生の父母等と適切に連携しているか
5-10. 卒業生への支援体制はあるか
5-11. 社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか

**6. 教育環境**

6-1. 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
6-2. 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか
6-3. 学内外の実習施設、企業実習先や海外研修先等について十分な教育体制を整備しているか
6-4. 防災に対する体制は整備されているか
6-5. 定期的に防災訓練は実施されているか

**7. 学生の受入れ募集**

7-1. アドミッションポリシーを策定し、自校関係者に周知するとともに社会に公表しているか
7-2. 学生募集活動は、適正に行われているか
7-3. 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか
7-4. 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか
7-5. 学納金は妥当なものとなっているか
7-6. 入学辞退者に対し授業料等について適正な取り扱いを行っているか

**8. 財務**

8-1. 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
8-2. 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
8-3. 財務について会計監査が適正に行われているか
8-4. 財務情報公開の体制整備はできているか

**9. 法令等の順守**

9-1. 法令、専修学校設置基準等の順守と適正な運営がなされているか
9-2. 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか
9-3. 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか
9-4. 自己評価結果を公開しているか
9-5 学校関係者の実施体制を整備し評価を行っているか
9-6. 学校関係者評価結果を公表しているか
9-7. 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか

**10. 社会貢献・地域貢献**

10-1. 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
10-2. 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか
10-3. 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか
10-4. 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

**11. 国際交流**

11-1. 国際交流を行っているか
11-2. 留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか
11-3. 留学生の学修、生活指導等について学内の適切な体制が整備されているか

## ●学校の教育目標

トライデントコンピュータ専門学校は、昭和 59(1984)年名古屋情報処理専門学校(旧校名)開校以来、約 40 年に渡り、時代の先端を担う情報処理技術者・コンピュータマルチメディア技術者の育成を通じて、情報化社会に貢献しうる有能な人材を輩出してきた。この間送り出した卒業生は約 11,000 人である。

トライデントコンピュータ専門学校を擁する学校法人河合塾学園は、その学園の教育理念を河合塾グループ共通理念である『汝自らを求めよ』＜自らを究め、この世に生まれて来た自らの使命を見いだして、それをあくまで追求する歓びが、すべての人間に与えられていることを意味する＞を本校の教育分野において実現することにあると考え、その教育理念を『Seek for Thyself』として学章に記して、IT 教育分野においてこれを追求する決意を内外にうたってきた。

この教育理念は、変わることの無いわれわれの根本的な精神ともいうべき決意であるが、近年の教育改革の取り組みの中で、専門学校グループとして教育理念をより具体的な言葉にする必要があると考え、平成 25(2013)年度においてあらためて検討のうえ宣言した。その内容は「トライデントは、みなさん一人ひとりを、志望の職業に導くのはもとより、将来、業界を牽引できる人材へと育て上げます」である。これは、トライデント全校を貫く共通的な教育理念となるものである。

その教育理念により導き出された本校の教育目標は「IT 業界で活躍するための「知」「志」「心」を持った真の「プロ」を育成すること」である。本校では「プロ」を特定の分野において社会の第一線で求められる実務知識、能力を有する者と考え、以下の育成すべき要素を「知」「志」「心」と表現している。

「知」:高度な自己の専門性を有し、それだけではなく隣接分野や類似業種への広範囲な知識も有す。

「志」:常に向上心をもち、新しい「モノ」のみならず「価値」の創造を目指す。

「心」:豊かな人間性をもつとともに、高い順法精神や倫理観、責任感を有す。

## ●重点項目

| | 評 価 項 目 | 評価 |
|---|---|---|
| 0-1 | 募集早期化への対応 | 3 |
| 0-2 | 新校舎を活用したブランディング強化 | 3 |
| 0-3 | 学生満足度アップ（授業満足度１：45%以上） | 4 |
| 0-4 | 教育成果（コンテスト、資格取得）によるブランド力向上 | 4 |
| 0-5 | 就職率・業界就職率の目標達成 | 4 |
| 0-6 | 企業との連携強化による教育力アップ | 3 |

0-1　募集早期化への対応　【自己評価：3 】

＜取り組み状況＞

本校では、オープンキャンパスへの来校率の向上と早期出願者獲得を目的に、来校動機を高める企画として企業による講演を時期（例：夏休み期間）を踏まえて積極的に設定している。企業講演は学科領域に関連の深い企業を優先的に招へいし、実務の現場をイメージしやすい内容とすることで、参加者の関心を喚起している。併せて、1 年生・2 年生に対しても継続的に進路ガイダンスへ職員が参画し、早期からの進路意識喚起と学校・学科の周知を図っている。これらの取組により、オープンキャンパス当日の来校者の満足度向上や、志望決定の前段階としての関心維持に一定の効果が見られるが、来校→出願への定量的な因果関係の把握は未だ十分でない。

＜今後の課題＞

1.2 年生への早期接触と来校者データの詳細な分析が課題。

---

0-2　新校舎を活用したブランディング強化　【自己評価：3 】

＜取り組み状況＞

新校舎完成を受けて、プロモーションビデオ（PV）および新校舎紹介パンフレットを作成した。PV は教室・実習室・共用空間などの設備・雰囲気を視覚的に伝える構成とし、パンフレットは施設概要や具体的な用途を明示する内容としている。これらの制作により、対外発信のための素材基盤は整った。

また、オープンキャンパスのコンテンツの刷新も図っており、新校舎の魅力を巡るスタンプラリー、オープンな共用部を活用してのセミナー等を策定している。

＜今後の課題＞

保護者、高校教諭への認知度の強化が課題である。

---

0-3　学生満足度アップ（授業満足度１：45%以上）　【自己評価：4】

＜取り組み状況＞

本校では、学生満足度の向上を教育活動の重要な指標として位置付け、前期・後期の年 2 回「学生授業アンケート」を実施している。アンケート結果は講師別・科目別に集計し、授業担当者へのフィードバックや授業改善の検討資料として活用している。授業実施にあたっては、講義計画書（シラバス）を通じて授業の到達目標や評価方法、科目の位置付けを学生へ周知し、学習目標を明確にしたうえで授業運営を行っている。

また、自由記述欄に寄せられた意見や要望についても講師へ共有し、授業内容や指導方法の改善に活用している。令和 7（2025）年度の授業アンケート結果は下表のとおりである。「授業理解度」「授業満足度」「内容・進度の適正度」の 3 項目については中期計画初年度の KPI として立てた目標値（FY26、FY27 は 50%が目標）である 45%以上を達成した。一方、「到達目標達成度」および「テーマ内容達成度」の 2 項目については 38%、39%と目標値には届かなかったものの、令和 6（2024）年度と比較してそれぞれ 2 ポイント、1 ポイント改善した。

※年 2 回実施している授業見学の結果をフィードバックし、各講師が授業改善に取り組んだ結果全ての評価項目において前年度を上回る結果となった。

| | 授業理解度 | 授業満足度 | 到達目標達成度 | 到達目標適正度 | テーマ内容達成度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 2025 年度 | 48% | 48% | 38% | 49% | 39% |
| 2024 年度 | 44% | 45% | 36% | 46% | 38% |

＜今後の課題＞

授業アンケートの無回答率は前年度の 19%から 14%へやや改善したものの、依然として一定数存在しているため、アンケートの目的や重要性の周知を継続し、さらなる回答率向上に取り組む必要がある。

---

0-4　教育成果（コンテスト、資格取得）によるブランド力向上　【自己評価：4】

＜取り組み状況＞

本校では、目に見える教育成果は学校のブランド力向上につながる重要な指標と位置づけ、資格取得支援およびコンテスト参加を教育活動の柱として推進している。

資格取得については、各学科の教育目標に応じて取得目標資格を設定し、「資格対策」に特化した集中授業や、試験時期に合わせた資格対策授業を実施し、学生の知識・技術の定着と合格率向上を図っている。

令和 7（2025）年度は、情報系学科において基本情報技術者試験で 244 名中 158 名が合格（昨年度:228 名中 156 名）し、合格率 65%（昨年度：68%）と全国平均 38%台（昨年度：40.8%）を上回る成果を達成した。

また、Web デザイン学科は Web クリエイター能力認定試験（HTML エキスパート）で昨年度同様合格率 100%（全国平均：80%）を達成。CAD 学科は 2 次元 CAD 利用技術者試験 1 級機械は今年度は全国平均を下回り苦戦。3 次元 CAD 利用技術者試験準 1 級においては昨年度に続き全国平均を上回る高い合格率を達成した。

コンテスト活動については、情報系学科において「第 8 回専門学校 HTML5 作品アワード（グランプリ・入選)」など多数入賞、CG・Web の各学科においても、「第 11 回全国専門学校ＣＧ作品コンテスト（グランプリ)」、「三十三銀行ビジネスプランコンテスト（学生部門 1 位)」など全国規模コンテストに積極的に参加し、受賞実績を積み重ねている。これらの教育成果は、学生募集活動においても活用され、本校の教育力や専門性の高さを示す客観的な実績としてブランド力向上に寄与している。

＜今後の課題＞

ゲームサイエンス学科の応募可能コンテストの開拓が課題である。

---

0-5　就職率・業界就職率の目標達成　【自己評価：4】

＜取り組み状況＞

本校では、就職率、実就職率、業界就職率の 3 つを重要指標として設定し、就職支援の成果を継続的に把握している。就職率は「就職者／就職希望者」、実就職率は「就職者／卒業者」、業界就職率は「業界就職者／就職者」と定義し、各指標の推移を確認しながら、就職支援の改善に活用している。

各指標の目標値は

1. 就職率　　97.0%以上
2. 実就職率　　90.0%以上
3. 業界就職率　85.0%以上

としている。

5 カ年の数値は、以下の通りである。

| | 1.就職率<br>(就職者/就職希望者) | 2.実就職率<br>(就職者/卒業者) | 3.業界就職率<br>(業界就職者/就職者) |
|---|---|---|---|
| 2025 年度 | 99.3% | 96.4% | 92.9% |
| 2024 年度 | 98.5% | 97.0% | 96.5% |
| 2023 年度 | 94.2% | 92.7% | 92.1% |
| 2022 年度 | 98.5% | 98.2% | 91.0% |
| 2021 年度 | 98.0% | 94.6% | 83.3% |

これらの指標の水準を維持するために、各クラス担任とキャリアセンターが協働して、学生一人ひとりの状況を把握しながら、進路希望や就職活動の進捗に応じたきめ細かな指導を行っている。

＜今後の課題＞

特になし。

---

0-6　企業との連携強化による教育力アップ　【自己評価： 3 】

＜取り組み状況＞

本校では、企業との連携を通じて、学生が業界の現場視点や技術、プロとしての姿勢に触れることを重視している。そのため、各学科において、企業による作品講評、業界講演、企業授業を実施し、学生が実務の視点に近づき、自身の学びや制作物を向上させる機会を設けている。

また、教育課程編成委員会を通じて、企業や業界関係者からカリキュラムや教育内容に関する意見を聴取し、教育活動の改善に活用している。

加えて、キャリアセンターが企業訪問や採用担当者との打ち合わせを通じて把握した業界動向、採用動向については、必要に応じて各学科へ共有し、授業や学生指導へ還元している。これらの取り組みにより、企業の力を借りながら、教育力の向上に努めている。

＜今後の課題＞

さまざまな角度から企業の協力を得て、教育活動の改善に取り組んでいるが、一部学科を除きインターンシップは企業主催のものが中心となっており、今後は、学校から企業へ働きかけ、教育目的や学修成果を明確にしたインターンシップを実施できる仕組みを長期的に形成する必要がある。

---

## 学校における職業教育の特色は何か
## ●自己点検･評価

１．教育理念・目標

（１）評価

| | 評 価 項 目 | 評価 |
|---|---|---|
| 1-1 | 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか<br>（専門分野の特性が明確になっているか） | 3 |
| 1-2 | 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・父母等に周知されているか | 4 |
| 1-3 | 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか | 3 |
| 1-4 | 学校における職業教育の特色は何か | 4 |
| 1-5 | 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか | 4 |

評価…　４：適切、　３：ほぼ適切、　２：やや不適切、　１：不適切

（2）取り組み状況および課題と改善策

1-1　学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）

【自己評価：3】

＜取り組み状況＞

本校では、教育理念・教育目標を具体的にブレークダウンし、実現のための諸施策をうたったものを教育方針として以下、策定している。

●意識改革を促す教育機会として、海外交流、産学連携、業界研究授業などを行う
●IT 分野の専門教育機関として、日本の枠内にとどまらない「最新の」「革新的な」知見を提供する
●自ら成長しようとする姿勢に必要な「考える力」を醸成する教育を行う
●自己の言動や判断に責任を持つなど、一社会人として自立するための教育を行う
●学校全体で学生一人ひとりに向き合い、学生の目標実現に全力で取り組む

こうした教育方針は学生に対する約束であり、経営陣の方向性指示の下、本部長、校長、教職員全体で協議のうえ平成 25(2013)年度に策定したものである。この教育方針は学校の教育活動として重要なものであるため、執務室や会議室に教育方針を掲出し、かつ、毎年全員で確認する意味で、3 月に実施している教職員全員が参加する事業方針説明会にて校長からその都度発表している。また、表現内容の見直しや追加・修正すべき内容については随時検討を実施しているが、策定して 10 年が経過しているため現在再検討をすすめている段階である。

＜今後の課題＞

学校の理念・教育目標・育成人材像は定められているものの、この目標や人材像を定めてから年月が経っているため、見直しや再検討の必要があると考えている。2026 年度新校舎移転に合わせて教育目標・育成人材像については再検討に入っているものの現状は再定義できていない。よって、2026 年度は検討の進度を促進し、2027 年度には教育目標や育成人材像を広く提示する予定である。

---

1-2　学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・父母等に周知されているか

【自己評価：4】

＜取り組み状況＞

学校の理念および教育目標の周知は、入学希望者、父母等、就職先企業、その他の関係者に本校の理解に資するために重要と考えている。トライデント全体の教育理念・教育目標については「トライデントのかなえる力」という広報媒体で周知している。トライデントコンピュータ校の教育目標・教育方針については、入学志望者にはパンフレットやホームページなどを通して、学生には学生便覧への掲載やオリエンテーションを通して、また父母等には毎年の保護者会にて説明し周知している。

＜今後の課題＞

1-1 にも記載したが、トライデントコンピュータ専門学校の教育目標を再検討するため再定義した新たな目標を各ステークホルダーに周知し、理解してもらうことが課題。

1-3 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか

【自己評価：3】

＜取り組み状況＞

各学科では、教育目標、教育方針を受け、それぞれの専門性に応じた育成人材像を次の通り設定している。

【情報処理系学科】

・基礎的な学力と IT 専門知識を有する人材
・代表的な IT 機器・アプリ・ネットサービスについて，インストール・環境設定・操作活用ができる人材
・処理内容を論理的に理解し，図で説明したり，プログラミングができる人材
・マニュアル・エラーメッセージ・技術情報を読解し，問題解決できる人材
・メンバーや関係者とコミュニケーションをとり，協力して行動できる人材
・リスク管理に従って納期を守る，責任感のある人材
・著作権や業務で与えられた権限を不正利用しない，倫理観をもつ人材

【ゲームサイエンス学科】

・ゲーム制作に必要なプログラミングとアルゴリズムをマスターした人材
・企画書、仕様書、プレゼンテーション資料の作成スキルと人に伝える力が備わった人材
・グループワークによるゲーム制作において人とのコミュニケーションを円滑に行うことができる人材
・グローバルな環境に適応できる人材
・自己啓発を重んじ、問題解決能力に優れた人材

【ＣＧスペシャリスト学科】

・ＣＧ制作に必要な基礎能力として、観察力、描写力、演出力を習得した人材
・主体性を持って物事を考え、問題意識が高く、課題発見力・問題解決力の高い人材
・企画、デザインといった業界のかじ取りができる上流ステップの仕事が可能な人材
・専門的に自らすすんで、デザインやＣＧ技術を習得し、時代の流れに即応した人材
・グループワーク、コラボレーションを通して、チームワークを円滑に行うことができる人材
・様々な制作や各種プロジェクトを経験し、仕事の流れをつかんだゲーム業界やＣＧ業界に通用する人材

【Ｗｅｂデザイン学科】

・Web デザイナーは、ビジュアルデザインと Web サイトとして実現できる HTML、CSS のスキルを有する人材
・Web サイトが社会に与える影響に興味をもち、常に新しい技術や現象を積極的に対応できる人材
・人の行動や言動の真意や想いなどを理解しようとし、使いやすい UI,サービスを提供できる人材
・専門分野だけでなく、他業種の分野にも常に好奇心を発揮できる人材

・Web サイトにおけるフロントエンド、バックエンドのプログラムの仕組みを理解できる人材
・グループ制作において、自分の役割と、グループの目的を意識して、仲間と協力しあい貢献できる人材
・常にインプットとアウトプットを意識して、向上心を持っている人材

【ＣＡＤ学科】
・「モノづくり」に必要な基礎知識を習得し、業界で活躍できる人材
・正確さやスピードが要求されるため、集中力や注意力が高い人材
・チームワークが必要とされるため、コミュニケーション能力があり、指示されたことをしっかりと形にできる人材
・コンピュータ操作や作成手順を習得するだけではなく、それを活用できる人材

＜今後の課題＞
各学科の育成人材像については昨年度の学校関係者評価委員会の中でも指摘があるとおり、再考の必要性があると考えている。現在、校長を中心に教務チーフ、学科主任により、トライデントコンピュータ校の教育目標の再考を実施し、再設定後に各学科の育成人材像も再検討をする予定としている。

---

1-4　学校における職業教育の特色は何か　【自己評価：4】
＜取り組み状況＞
職業教育の一環として、全学科 1 年次に社会人基礎力を養成するための「ベーシックプログラム」「社会人基礎力」といった科目を設定し、グループワークやプレゼンテーション等を授業に取り入れ社会に出るための準備を行っている。また「業界研究授業」を通して各々がめざす業界の動向や職種の理解を深め、就職前学年では「企業研究授業」により就職活動に向かうための準備を行っている。その他企業と連携した作品講評やインターンシップ等の推奨により学生たちが働くことをより意識できるような取り組みを行っている。

2025 年度実績

| 学科 | 業界研究・作品講評 件数 |
|---|---|
| ゲームサイエンス学科 | 15 件 |
| CG スペシャリスト学科 | 15 件 |
| Web デザイン学科 | 8 件 |
| CAD 学科 | 2 件 |
| 情報処理系学科 | 13 件 |

＜今後の課題＞
特になし。

---

1-5　社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか　【自己評価：4】
＜取り組み状況＞
校長が中心となり、内閣府や文部科学省から提供される情報に基づいて学園や学校にて毎年検討を重

ねている。また、IT 業界に関わる見通しや将来像、あるいは期待される人材像等については経済産業省、総務省、デジタル庁あるいは民間シンクタンク等から提供される様々な将来予想や構想に関する情報収集に努め、そうした情報をもとに新しい教育ニーズや人材像を考え学校としての長期的構想に取り組んでいる。2025-2027 年の中期事業計画の部門方針である「ありたい姿"の継続的・発展的実現に取り組む」「学校の提供価値を再確認し、その価値を提供し続けるために必要なことに取り組む」「社会の変化に対応するために、変化する意志と変化できる力を醸成する」この 3 点を軸に年次計画を作成し、毎年 3 月に実施される事業方針説明会で校長より発表し、教職員に共有を行うことができている。

＜今後の課題＞

特になし。

---

２．学校運営

（1）評価

| | 評 価 項 目 | 評価 |
|---|---|---|
| 2-1 | 目的等に沿った運営方針が策定されているか | 4 |
| 2-2 | 運営方針に沿った事業計画が策定されているか | 4 |
| 2-3 | 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか | 4 |
| 2-4 | 運営に関わる会議（教職員会議、教務会議等）は定期的に開催されているか | 4 |
| 2-5 | 人事、給与に関する規程等は整備されているか | 4 |
| 2-6 | 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか | 4 |
| 2-7 | 情報システム化等による業務の効率化が図られているか | 4 |

評価…　4：適切、　3：ほぼ適切、　2：やや不適切、　1：不適切

（2）取り組み状況および課題と改善策

2-1　目的等に沿った運営方針が策定されているか 【自己評価：4】

＜取り組み状況＞

例年 3 月に実施される事業方針説明会において専門学校事業の責任者である本部長より学園全体の事業計画が発表され、また校長より年度目標及び運営方針が発表されている。令和 8(2026)年 3 月に発表された学校の運営方針は、「新校舎を最大限に活用しありたい姿の継続的・発展的実現に取り組む」であった。この運営方針をベースに各チームで取り組むべき目標が各チーフより提示され、全体に共有されている。

＜今後の課題＞
特になし。

---

2-2　運営方針に沿った事業計画が策定されているか 【自己評価：4】
＜取り組み状況＞
中期事業計画に基づき、毎年、校長がその年度の校舎全体の運営方針を設定している。各チームのチーフは課された目標を達成するための計画をチーム目標としてチーム運営を行っている。また、そうした各チーム、各学科の運営方針については、毎年 3 月に実施される事業方針説明会にて発表され、教職員に周知徹底されるとともに指定場所に保存され随時確認ができるようになっている。

＜今後の課題＞
特になし。

---

2-3　運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか
【自己評価：4】
＜取り組み状況＞
本校が属する学校法人河合塾学園においては、理事会、評議員会が定期的に開催され、事業計画や重要案件について審議され実行に移されている。理事会や評議員会で審議され決定された事項については、専門学校事業の責任者である事業本部長が各校校長や部長を招集する本部会議において、順次詳細な計画が練られて実行に移される体制となっている。
その後、本校においては、校長を統括責任者として、カリキュラム管理・講師管理・学生成績管理などを業務とする「教務チーム」、学生学籍管理・校舎運営管理・入学試験管理などを業務とする「入学広報チーム」、就職指導・学生キャリアプラン作成支援などを業務とする「キャリアセンターチーム」の３チームと連携を図りながら実行していくことになっている。また、経理や労務に関する事項は学校法人河合塾の人事部、経理部が中心となって業務を行っている。
こうした会議体や組織体制については内規や学生便覧にて明文化しており、組織運営において有効に機能していると判断している。

＜今後の課題＞
特になし。

---

2-4　運営に関わる会議（教職員会議、教務会議等）は定期的に開催されているか 【自己評価：4】
＜取り組み状況＞
年１回実施される事業方針説明会にて、専門学校事業の事業計画を専門学校事業本部長、校舎目標及び運営方針を校長、各学科の運営方針を学科主任より発表し、教職員に共有している。
また、コンピュータ校としては以下の会議を定例とし、各会議を通して、教職員への情報共有に努めている。

| 会議名・開催時期 | 開催責任者 | 参加者 | 内容 |
|---|---|---|---|
| チーフ会議<br>（週次開催） | 校長 | 校長・チーフ | 募集状況、就職状況、学生状況、学校運営課題等の報告・協議 |
| チーム会議<br>（不定期開催） | 各チーフ | チームスタッフ | 各チームの運営に関する協議 |
| 学科会議<br>（月次開催） | 学科主任 | 教務チーフ、<br>学科担当スタッフ<br>学科所属講師 | 学科の学生状況、<br>就職状況、学科運営に関する報告・協議 |
| 月例連絡会 | 校長 | 全教職員 | 全体の連絡事項共有 |

＜今後の課題＞

特になし。

---

2-5　人事、給与に関する規程等は整備されているか　【自己評価：4】

＜取り組み状況＞

講師の就業規則や講師評価制度等については、トライデントグループ全体で規定を作成のうえ、運用を行っている。職員については就業規則や人事評価制度だけでなく採用計画もトライデントグループ校間の職場異動もあるためグループ全体で実行している。人事評価・考課については講師、職員ともに目標管理制度を導入し、年度当初に策定した個人目標の達成状況を中心に考課を実施している。

講師の採用についてはトライデント各校の将来構想や学科改変、退職講師補充などの各要因の基づき、ホームページや外部媒体を利用して募集を行っている。

＜今後の課題＞

特になし。

---

2-6　教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか　【自己評価：4】

＜取り組み状況＞

事業・学校経営についてのトライデントグループの意思決定プロセスは、事業本部長が主管しトライデント各校の校長・各セクション幹部をメンバーとする本部会議が最上位に位置する。本部会議での決定事項・伝達事項は校長が持ち帰り、チーフ会議（教務、学生、キャリアセンターの各チーフが出席）を開催し伝達する。さらに、これを各チーム内においてチーム会議（チーム全スタッフ参加）を開いて通知し、教職員スタッフ全員に決定事項と具体的業務内容が周知されるようになっている。また内容によって共有漏れがないように社内システムで全教職員に情報共有を行っている。

＜今後の課題＞

特になし。

---

2-7　情報システム化等による業務の効率化が図られているか 【自己評価：4】

＜取り組み状況＞

令和 6（2024）年度に学事システム入替えを行い、従来のシステムと同様に入学から在籍、教務、就職、卒業までの情報管理を行っている。入学希望者へは LINE でのイベント案内、参加誘導などを実施している。また、在校生はシラバス、出席状況、成績を個人のデバイスで確認できるようになった。一方で父母等もサイトへ登録することで同様に出席状況や成績、学校からの案内を確認することができ、父母等への郵送案内などの業務が減少した。また従来どおり河合塾グループの校舎として、経理会計システムや人事、総務、業務システム、社内システムの導入により業務の効率化が図られている。

＜今後の課題＞

学事システムの機能をより有効に活用した学生募集や学生指導、父母等連携を進めることが必要である。

３．教育活動

（１）評価

| | 評 価 項 目 | 評価 |
|---|---|---|
| 3-1 | 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか | 4 |
| 3-2 | 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか | 4 |
| 3-3 | 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか | 4 |
| 3-4 | 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか | 4 |
| 3-5 | 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか | 4 |
| 3-6 | キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか | 4 |
| 3-7 | 授業評価の実施･評価体制はあるか | 3 |
| 3-8 | 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか | 4 |
| 3-9 | 基準に基づき適切に成績評価、進級、卒業判定を行っているか | 4 |
| 3-10 | 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか | 4 |
| 3-11 | 資格・免許取得の指導体制はあるか | 4 |
| 3-12 | 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか | 4 |
| 3-13 | 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか | 4 |
| 3-14 | 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか | 3 |

評価…　４：適切、　３：ほぼ適切、　２：やや不適切、　１：不適切

（２）取り組み状況および課題と改善策

3-1 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか【自己評価：4】

＜取り組み状況＞

本校では、トライデント全校共通の教育理念のもと策定された教育目標および教育方針に基づき、各学科の教育課程編成および教育活動を実施している。

教育課程の編成にあたっては、学科主任および常勤講師を中心に、育成する人材像や教育目標を踏まえ

た編成方針を策定し、各授業担当講師との協議を経て授業計画へ反映している。
　また、教育課程編成委員会や企業ヒアリング等で得られた業界動向や人材ニーズも参考に教育課程の編成を行っている。

＜今後の課題＞
　特になし。

---

3-2 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか【自己評価：4】
＜取り組み状況＞
　各学科では、育成人材像に基づき、カリキュラムマップを作成し学生へ開示している。あわせて各科目の講義計画書（シラバス）において授業の到達目標や評価方法を明示し、学生が学習目標を理解したうえで学習に取り組めるようにしている。専門知識や技術を段階的に習得できるよう授業科目を配置するとともに、卒業研究や作品制作、資格取得対策、就職活動支援なども含め、教育目標達成に必要な学習時間を確保している。

＜今後の課題＞
　特になし。

---

3-3 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか【自己評価：4】
＜取り組み状況＞
　本校では、育成人材像に基づき、基礎から応用、応用から実践へと段階的に学習を進められるよう体系的なカリキュラム編成となっている。カリキュラム編成にあたっては、各授業担当講師との協議を経て授業計画へ反映する体制を整え、教育内容の重複や不足が生じないよう調整を行っている。職業実践専門課程認定学科においては、年 2 回開催の教育課程編成委員会での企業・業界団体からの意見を取り入れ、実務に即したカリキュラムへの改善を継続している。
　さらに、キャリアセンターが収集した企業の採用動向や人材ニーズについて教職員間で共有し、カリキュラムの見直しに活用している。

＜今後の課題＞
　育成人材像を再考したうえで、カリキュラム編成についても見直しをはかる必要がある。

---

3-4　関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか 【自己評価：4】
＜取り組み状況＞
　本校では、関連分野の企業や業界団体等との連携を通じて、業界ニーズを反映した実践的なカリキュラムの編成・見直しに取り組んでいる。学科主任をはじめ、教務チーム、キャリアセンターチーム職員、講師が業界の方にヒアリングを実施し、必要とされる知識・技術、求められる人材像、業界動向等の把握に

努めている。また、業界で活躍するクリエイターや企業担当者を招いた業界研究講演会や特別講義等を通して、最新の業界情報を教育内容へ反映している。

キャリアセンターにおいては、採用担当者や現場クリエイターとの情報交換を継続的に実施するとともに、企業訪問を通じて業界動向や人材ニーズの把握に努めている。収集した情報は社内システムや会議等を通じて教職員へ共有し、授業内容や指導方針の検討資料として活用している。

各学科において年 2 回開催している教育課程編成委員会で委員からいただいた意見・助言については学科内で検討し、実施可能な内容から順次カリキュラムや授業内容へ反映することで、業界ニーズに即した教育の充実を図っている。

＜今後の課題＞

特になし。

---

3-5　職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか　【自己評価：4】

＜取り組み状況＞

本校では、職業教育の質向上を図るため、外部関係者からの評価や意見を積極的に取り入れる体制を整えている。学校関係者評価委員会を毎年開催し、自己点検・自己評価報告書の内容や教育活動全般についての委員からの指摘や助言については、内容を精査したうえで学内に共有し、教育活動の見直しに活用している。

また、企業連携授業において、企業から提示された課題に対する作品については作品講評会にて本校の教育に関する意見をいただいている。さらに、卒業研究制作展や進級制作展の場では、多くの企業関係者に作品を閲覧いただき、教育内容や学生作品に対する意見・助言をいただいている。

令和 3（2021）年度からは専用ホームページを開設し、多くの企業関係者に作品を閲覧いただけるようにし、より多くの意見・助言をいただける体制としている。

これらの意見については学科、学校内の会議体で共有し、教育内容やカリキュラム改善に取り組んでいる。

＜今後の課題＞

特になし。

---

3-6　キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか【自己評価：4】

＜取り組み状況＞

本校の教育方針である『自ら成長しようとする姿勢に必要な「考える力」を醸成する教育を行う』に基づき、独自の「キャリアステップ・カリキュラム」を核としたキャリア教育・実践的職業教育を体系的に実践している。具体的な目標としては、日々の授業を通じた専門知識・技術の習得に加え、社会人基礎力を段階的に身に付けることである。

また、業界の第一線で活躍するプロフェッショナルを招いた「業界研究」や、企業から提示された実務テーマに挑む「企業連携授業」を実施し、これにより、実際の業務フローに近い環境での開発・制作を経

験させ、学生が就職後の具体的なキャリア形成や働く姿をリアルに意識できる機会を設定した。

＜今後の課題＞
特になし。

---

3-7　授業評価の実施･評価体制はあるか　【自己評価：3】
＜取り組み状況＞
学生による授業評価として、前期・後期の年 2 回「学生授業アンケート」を実施している。アンケートでは、授業理解度、満足度、到達目標達成度、授業内容や進度の適切性などについて調査し、その結果を講師別・科目別に集計して授業担当者へフィードバックしている。また、講師面談や授業改善検討の際の参考資料としても活用している。
アンケート実施にあたっては、講義計画書に基づき、授業の位置付けや到達目標、評価方法等を学生へ事前に周知し、評価の客観性向上に努めている。
令和 7（2025）年度においても、「理解できた・どちらかというと理解できた」「満足・どちらかというと満足」と回答した学生が全体の 79%＜令和 6（2024）年度は 74%＞を占めており、授業内容に対する一定の評価を得ている。また、自由記述欄に記入された意見や要望についても担当講師へ共有し、授業内容や指導方法の改善に活用している。
さらに、教務チームによる年間 2 回授業見学を実施し、常勤講師を中心に授業運営や指導方法の確認を行い、見学後には講師へフィードバックを実施することで授業品質の向上を図っている。

＜今後の課題＞
授業アンケートにおいては、無回答率が令和 6（2024）年度の 19%に対し、令和 7（2025）年度は 14%とやや改善されたものの依然として高い傾向にあり、アンケートの目的や重要性を継続的に学生に周知し、回答しやすい環境づくりや実施方法の見直しを検討していく必要がある。

---

3-8　成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか　【自己評価：4】
＜取り組み状況＞
本校では、成績評価、単位認定、進級・卒業判定に関する基準を明確に定め、公正かつ公平な運用を行っている。
成績評価については、定期試験、小テスト、課題提出、授業態度、出席状況など複数の評価項目を総合的に判断する仕組みとしており、一度の試験結果のみで評価が決定されないよう配慮している。評価基準はシラバスに明示し、学生用ポータルサイトを通じて公開し、学生はいつでも確認できる環境となっている。また、成績は A・B・C・F の 4 段階評価とし F は単位不認定となる。学生への成績通知は年 2 回学生ポータルサイトにて実施している。
進級及び卒業判定については、内規に基づき各学科の成績判定会議で審議を行い、履修状況や修得単位数を確認したうえで適正に判定している。
また、企業実習や入社前研修等については、学則上の規定として「企業実習や入社前の研修などで、本校の教育に相当する水準を有すると認めたものに関して、総授業時間数の 2 分の 1 を超えない範囲で授

業科目の履修とみなす」との特則的な記述があり、その場合本人からの申請内容に基づき検討を実施することになっている。

＜今後の課題＞
特になし。

---

3-9　基準に基づき適切に成績評価、進級、卒業判定を行っているか 【自己評価：4】
＜取り組み状況＞
成績評価は、評価基準を定め、厳格に実施している。基準で重要視しているのが、「公平性、客観性」であり、その観点から、科目ごとに、定期試験結果、授業内で実施される小テスト、授業態度、出席、提出課題の状況などで総合的に判断して成績を決定している。
進級及び卒業判定については、学生便覧に記載されている進級・卒業条件に照らし合わせ、校長、教務チーフ、学科主任、事務担当者による成績判定会議を開催し、修得単位数、出席状況及び学習成果を確認し、審議を経て判定を行っている。

＜今後の課題＞
特になし。

---

3-10　資格取得等に関して、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか 【自己評価：4】
＜取り組み状況＞
本校では、資格取得を専門知識・技術の修得状況を客観的に示す指標の一つとして位置付け、学科ごとに教育目標と連動した資格取得目標を設定している。「資格対策」に特化した集中授業や試験時期に合わせた資格対策授業を実施し、段階的に知識・技能を習得できる体系的な指導体制を構築している。
目標資格別・習熟度別のクラス編成により効果的な学習支援を行っている。資格試験の出題傾向や業界動向を踏まえ、学科会議等を通じて授業内容や教育計画の見直しを継続的に行っている。

＜今後の課題＞
特になし。

---

3-11　資格・免許取得の指導体制はあるか 【自己評価：4】
＜取り組み状況＞
本校では、学生の資格取得を支援するため、学科ごとに目標資格を設定し、計画的な指導を実施している。
資格対策授業に加え、試験時期に合わせた集中講座や補習授業を実施するとともに、学生の習熟度に応じたクラス編成や個別指導を行い、理解度に応じた学習支援を行っている。
また、模擬試験や過去問題演習を通じて学習成果を確認し、弱点分野の把握とフォローアップを実施している。

＜今後の課題＞

2027 年度以降の新たな情報処理技術者試験への対応を進めていくことが最重要課題である。

---

3-12　人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか

【自己評価：4】

＜取り組み状況＞

育成人材目標の達成、教育の質の維持・向上のために、専門知識・技術の教授能力はもちろん最新技術の習得、新しい分野へ挑戦する意思がある方、向上心がある人物を採用の条件としている。
採用にあたっては校長、教務チーフ、学科主任の複数での書類審査、面接を経て採否の判断をしている。
採用後は、学科主任を中心に指導を行い、場合によっては複数回の模擬授業または主任による授業見学を通して、フィードバックを行い教授力の向上に努めている。

＜今後の課題＞

特になし

---

3-13　関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保・育成するなどマネジメントが行われているか 【自己評価：4】

＜取り組み状況＞

教員の確保については、複数の媒体を通して、業界経験年数や実務状況などを確認したうえでターゲットを絞って採用できるように努めている。また育成のうえでは、関連分野における業界との連携は欠かせないものと考えており、常勤講師、キャリアセンタースタッフは関連分野・業界等との積極的な意見交換などを行うことで、学生を業界へ送りだすために必要な知識を吸収するとともに、研修による自己研鑽ができる環境も整えている。また IT 業界の技術進歩や技術革新のスピードに対応するため、業界で活躍している非常勤講師の採用も積極的に行っている。

＜今後の課題＞

特になし。

---

3-14　関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか 【自己評価：3】

＜取り組み状況＞

講師の専門的知識の向上のため、講師には年 1 回以上の専門分野に関する研修の受講を推奨しており、講師面談の際に教務チーフより受講を働きかけている。また情報処理系学科の講師には資格試験の受験も推奨している。また、トライデントグループ全体で教授法に関する研修を年 2 回実施し、授業を教える技術はもちろんのこと、学生フォローについての知識習得が行える体制も整えている。

2025 年度の研修参加状況（抜粋）

[専門分野研修]

・ゼロから始める ChatGPT x Python プログラミング入門講座

・Japan IT Week/Japan DX Week/営業・デジタルマーケティング Week
・ChatGPT 完全解説セミナー
・第 8 回 名古屋ロボデックス ロボット開発・活用展
・Snowflake 入門シリーズ
・情報処理安全確保支援士 オンライン講習
・強度設計入門講座
・デジタルハリウッドアカデミーオンライン講座
・CEDEC2025
・グリッドが搭載されたオートレイアウトを学ぼう！
・Designship 2025
・生成 AI の使いどころがわかる！Web マーケティングを劇的に変える「生成 AI 活用の極意」
・RESEARCH Conference 2025

【指導力の修得・向上のための研修等】
・主体的・対話的で深い学びの実現～専門学校 AL 形式中心の授業スキル向上の習得
・多様な特性（発達障害）を持つ学生を支える教育現場づくり

＜今後の課題＞
取り組みそのものは問題ないが、受講講師にやや偏りがみられるため、研修受講の重要性をより一層働きかける必要がある。

４．学修成果

（１）評価

| | 評 価 項 目 | 評価 |
|---|---|---|
| 4-1 | 就職率の向上が図られているか | 4 |
| 4-2 | 資格取得率の向上が図られているか | 4 |
| 4-3 | 卒業生の社会的な活躍及び評価を把握しているか | 3 |
| 4-4 | 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されいるか | 3 |

評価…　４：適切、　３：ほぼ適切、　２：やや不適切、　１：不適切

（２）取り組み状況および課題と改善策

4-1　就職率の向上が図られているか　【自己評価：4 】

＜取り組み状況＞

本校では、就職率の向上に向けて、クラス担任とキャリアセンターが連携し、学生一人ひとりの進路希望や就職活動の進捗状況を把握しながら、個別の状況に応じた支援を行っている。クラス担任による日常的な学生指導と、キャリアセンターによる企業情報・求人情報等の提供を組み合わせ、学生の希望職種や活動状況に応じた就職活動支援につなげている。

※具体的な取り組みは以下に記載。

・学内説明会

キャリアセンターが主導し、学生の志望職種や就職活動の状況を踏まえ、企業を招いた説明会を実施している

・トライデント合同企業説明会

例年 12 月頃に本校及び姉妹校トライデントデザイン専門学校、トライデント外国語・エアライン・ホテル専門学校と合同で開催し、複数の企業に協力いただきながら、学生が企業理解を深める機会としている。本イベントは、学生にとって本格的な就職活動の開始に向けた重要な機会となっている。

・新規企業開拓、求人票の獲得

学生へより多くの選択肢を提供するため、キャリアセンターが就職対象となる企業への往訪、来訪、イベント参加を通して、求人票の獲得、求める人材像のヒアリング等を行っている。また、中期経営計画、年計に基づき、重点職種の企業を上記の方法をもって、開拓している。

＜今後の課題＞

特になし。

---

4-2　資格取得率の向上が図られているか　【自己評価：4】

＜取り組み状況＞

資格取得は、専門知識・技術の習得を客観的に証明するとともに、学生の学習意欲や継続的な努力を示す重要な指標であり、学生の職業人としての第一歩に有力なサポートとなり得るものとして資格取得の意味と責任の大きさを認識し、各学科において資格取得支援を実施している。

令和 7 年度の結果は以下の通り

令和 7（2025）年度においては、CG スペシャリスト学科は目標 80%に対して 95%、Web デザイン学科では昨年度同様、合格率 100%を達成できた。CAD 学科の「2 次元 CAD 利用技術者試験 1 級【機械】」については、設問 2 の図面に正しく解答できない誤記（表記の不備）があり、この問題に注力した学生は時間切れで他の問題に着手できず合格率低下の要因となった。3 次元 CAD 利用技術者試験準 1 級においては高水準の合格率を維持できている。

各学科において目標資格の取得に向けて補講や放課後学習支援を実施し、合格ライン付近の学生に対する個別指導を強化している。

情報処理系学科では、国家資格である基本情報技術者試験、情報セキュリティマネジメント試験ともに目標以上の合格率となった。教員による出題傾向分析や試験結果の検証を行いながら、授業内容や対策指導の改善に取り組み、基本情報技術者試験合格者や入学前取得者を対象に、応用情報技術者試験や上位資格取得を目指した特別授業を実施している。

【学科別　資格取得】　　［人数：合格者／受験者数］

| 学科 | 資格 | 2025年度 | | | 2024年度 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 目標 | % | 人数 | 目標 | % | 人数 |
| CGスペシャリスト学科 | CG-Arts検定ベーシック | 80% | 95% | 18/19 | 80% | 86% | 12/14 |
| Webデザイン学科 | ウェブクリエイター能力認定試験エキスパート | 100% | 100% | 19/19 | 100% | 100% | 25/25 |
| CAD学科 | 2次元CAD利用技術者試験1級【機械】 | 50% | 29% | 4/14 | 50% | 59% | 17/29 |
| | 3次元CAD利用技術者試験準1級 | 60% | 88% | 15/17 | 60% | 92% | 11/12 |
| 情報処理系学科 | 基本情報技術者試験 | 60% | 65% | 158/244 | 60% | 68% | 156/228 |
| | 情報セキュリティマネジメント試験 | 60% | 62% | 154/249 | 60% | 57% | 142/247 |

＜今後の課題＞

さらなる合格率向上をはかるための対策が必要。

---

4-3　卒業生の社会的な活躍及び評価を把握しているか　【自己評価：3 】

＜取り組み状況＞

企業訪問や採用担当者との打ち合わせ等を通じて、卒業生の就業状況や職場での評価について継続的にヒアリングを行っている。また、業界雑誌や Web サイト等を活用し、卒業生が携わった作品の掲載、受賞歴、プロジェクト参加実績など、社会的な活躍に関する情報収集に努めている。

さらに、卒業生アンケートを実施し、卒業後の進路、就業状況、業界での活動状況等を把握することで、教育内容や就職支援の改善に活用している。加えて、同窓会総会等を通じて卒業生との継続的な関係構築を図り、卒業生ネットワークの形成に取り組んでいる。

＜今後の課題＞

卒業生ネットワークの強化が課題である。卒業生と学校が継続的に連絡を取る機会は、偶発的な接点を

除けば同窓会総会等に限られており、卒業生とのつながりを教育活動や在校生支援に十分活用できる体制が整っているとはいえない。また、卒業生の住所、連絡先、就業先等の情報の更新も滞っているため、卒業生情報を継続的に更新できる仕組みづくりが求められる

---

4-4　卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか【自己評価：3 】

＜取り組み状況＞

卒業生アンケート調査を実施し、卒業後の就業状況、職種、業界での活動状況、キャリア形成の状況等について現況把握に努めている。また、卒業生の現在の就業状況やキャリアの状況と、在学時の授業・就職支援・学校生活等に対する満足度との関連を分析するため、相関関係の調査を開始している。これにより、在学時の教育活動や支援内容が卒業後のキャリア形成にどのような影響を与えているかを把握し、今後の改善につなげる体制整備を進めている。

＜今後の課題＞

卒業生アンケート調査は実施しているものの、現時点では結果の十分な分析や教育活動への具体的な還元には至っていない。今後は、調査項目や分析方法の検討を進め、教育課程や就職支援の改善に活用していく必要がある。

５． 学生支援

（１）評価

| | 評 価 項 目 | 評価 |
|---|---|---|
| 5-1 | 進学・就職に関する支援体制は整備されているか | 3 |
| 5-2 | 退学率の低減が図られているか | 4 |
| 5-3 | 学生相談に関する体制は整備されているか | 4 |
| 5-4 | 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか | 4 |
| 5-5 | 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか | 4 |
| 5-6 | 学生の健康管理を担う組織体制はあるか | 4 |
| 5-7 | 学生の生活環境への支援は行われているか | 4 |
| 5-8 | 課外活動に対する支援体制は整備されているか | 4 |
| 5-9 | 学生の父母等と適切に連携しているか | 3 |
| 5-10 | 卒業生への支援体制はあるか | 4 |
| 5-11 | 社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか | 3 |

評価… ４：適切、 ３：ほぼ適切、 ２：やや不適切、 １：不適切

２）取り組み状況および課題と改善策状

5-1 進学・就職に関する支援体制は整備されているか 【自己評価： 3 】

＜取り組み状況＞

本校では、クラス担任制を生かし、クラス担任がキャリアセンターと協働し、学生一人ひとりの就職支援を行う体制を構築している。また、外部講師によるキャリアアドバイスや各業界の現場で活躍する方々による講演を実施するなど、早期からの就業意識の向上に努めている。加えて、進学希望者に対しても、担任を中心に個別相談を行い、必要に応じて進学先の情報提供や出願に向けた支援を行っている。

※具体的な取り組みは以下の通り。

・キャリアアドバイス

キャリアコンサルタントの資格を有する外部講師による個別相談を実施し、学生が自身の適性や希望を整理しながら、進路選択ができるよう支援している。

・業界研究授業
業界の現場で活躍する方々を招いた講演や説明会を実施し、業界理解、職種理解を促進し、職業理解を深める機会を設けている。これにより、早期から就業意識を醸成し、作品制作やインターンシップ参加などの就職活動への主体的な取り組みにつなげている。

・企業研究授業
卒業前年次から「企業研究授業」をカリキュラムに組み込み、志望業界理解に加え、履歴書指導、面接指導、試験対策等の講座を行い、学生が円滑に就職活動を開始できる仕組みをつくっている。

・求人票のデジタル公開
学生の就職活動を円滑に支援するため、求人情報にアクセスしやすいようデジタルでの求人票公開を行っている。

・企業採用情報の展開
キャリアセンターを中心に各企業から得た情報は講師へ共有され、日々の指導へ還元されている。

・保護者懇談会
卒業前年次の秋には就職活動に関する保護者会を実施している。保護者会等を通じて、就職活動の進め方や学校の支援内容について父母等へ情報提供を行い、家庭と学校が連携して学生の進路選択を支援できる体制を整えている。また、卒業年次対象の春期保護者面談も行い、家庭での就職活動支援を促進している。

＜今後の課題＞
就職活動に関する求人情報、イベント情報等にタイムラグが生じる場合があり、学生が必要な情報へ迅速にアクセスできる仕組みの構築が必要。また、学生の利便性向上と支援の効率化を図るため、就職関連情報及び各種手続きの見直しが必要である。

---

5-2　退学率の低減は図られているか　【自己評価：4】
＜取り組み状況＞
本校では、退学を学生のキャリア形成における重要な課題と捉え、退学率低減に向けた取り組みを継続的に実施している。その結果、退学率は令和 5（2023）年度 4.5%、令和 6（2024）年度 4.4%、令和 7（2025）年度 4.2%と抑制的に推移している。
退学予防のため、担任・講師・教務スタッフ・教務チーフ・奨学金担当者等が学生情報を共有し、組織的な学生支援体制を整備している。
また、学内には学生相談室を設置し、専門カウンセラーによる相談体制を整えている。さらに、欠席状況の定期的な確認による早期対応、父母等への出席状況通知や保護者懇談会の実施、スポーツ大会・学園祭・クラブ活動等を通じた学生同士の交流促進、教育・心理検査（hyper-QU）の活用など、多面的な退学防止策に取り組んでいる。

＜今後の課題＞

継続的な退学率低減に向けた取り組みを実施する必要がある。

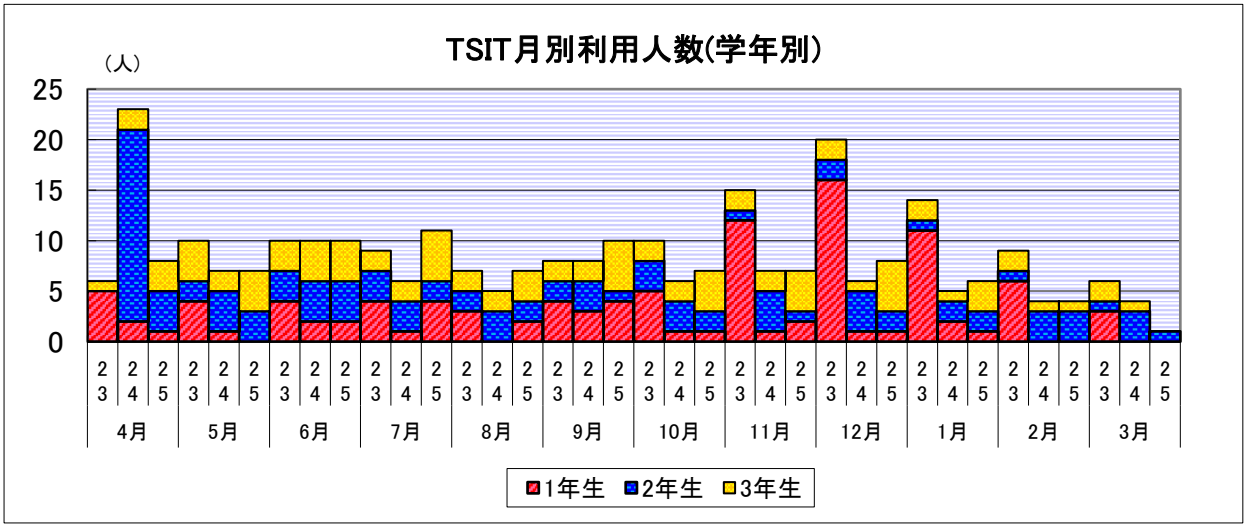
---

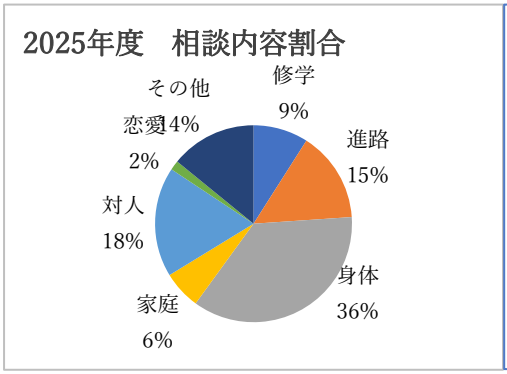
5-3　学生相談に関する体制は整備されているか　【自己評価：4】

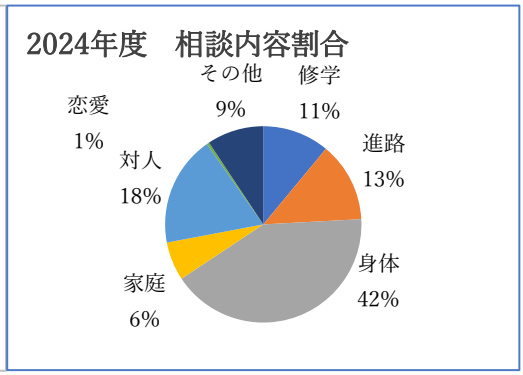
＜取り組み状況＞

本校では、クラス担任制を導入し、学生が学習・生活・進路に関する相談を日常的に行える体制を整備している。

また、専門の心理カウンセラーが常駐する学生相談室を設置し、守秘義務に配慮した環境のもとで専門的な相談支援を実施している。学生相談室は年間約 200 日開室しており、相談予約や入室状況を分かりやすく掲示するなど、利用しやすい環境づくりにも努めている。これらの取り組みにより、学生が抱える様々な課題に対して、安定した相談体制を維持している。相談内容は身体面や心理面に関するものが一定数の割合を占めている。また健康面に不安を抱える学生も増えていることから、令和 8（2026）年度からは保健師等の常駐も視野に入れた取り組みを進めている。




＜今後の課題＞

特になし。

---

5-4　留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか 【自己評価：4】

＜取り組み状況＞

年度初めには、新入生全員および希望する在校生を対象として新年度オリエンテーションを実施し、生活面・学習面・制度面に関する説明を行っている。また、日常的な支援体制として留学生担当者を配置し、在留資格の管理をはじめ、各種手続き、学習相談、生活相談などに対応している。

アルバイトについては、新年度オリエンテーション時にアルバイト先の情報を提出させるとともに、毎月 1 回、紙でのアルバイト実績報告書の提出を求め、状況の把握に努めている。

留学生の就職においては、日本語能力試験（JLPT）N2 レベルの日本語力がほぼ必須となっている現状から、2025 年度から希望者を対象とした N2 対策講座を実施している。その結果、受講者 9 名のうち 3 名が当年度内の試験で N2 に合格することができ、対策講座は一定の効果があったと考える。今後は、留学生の増加による業務量の増加や生活指導に特化した職員の配置等を検討している。

＜今後の課題＞

留学生の生活指導面の強化。

---

5-5　学生に対する経済的な支援体制は整備されているか 【自己評価：4 】

＜取り組み状況＞

学生の勉学継続のため、経済的支援の必要性は年ごとに大きくなり、近年の物価高騰の影響により顕著になってきている。本校が整備する主な学費支援制度としては以下である。

1. トライデント奨学生制度
   トライデント在学中に学業・人物ともに優秀と認められた学生に対して、選考のうえ奨学生の特典を与える制度。特典は選考結果により授業料から 300,000 円免除、200,000 円免除、100,000 円免除、50,000 円免除となっている。
2. トライデント同窓会奨学生制度
   学業・人物ともに優秀で修学上、経済的援助が必要な在校生に対し、トライデント同窓会より年額上限 100,000 円が給付される制度。
3. トライデント入学金減免制度
   トライデント卒業生または在校生の親・子・兄弟や、河合塾グループ出身生に対し、各々の区分に基づき入学金の一部が減免される制度。
4. 特待生選抜制度
   トライデント出願に際し、優秀な資格を取得している、あるいは高等学校での成績が優秀であるなど学業・人物ともに優秀と認められた学生に対して、奨学生の特典を与える制度。特典は選考結果により 1 年次の授業料から 500,000 円免除、300,000 円免除、200,000 円免除、100,000 円免除、50,000 円免除、30,000 円免除となっている。

なお、学費支援制度とは別に、学費の納入についても配慮している。学費は、前期・後期の二期での分納が原則であるが、申し出のあった学生については、事情を考慮のうえ、当該期完納を条件にさらなる分納や延納を認めている。

＜今後の課題＞
特になし。

---

5-6　学生の健康管理を担う組織体制はあるか　【自己評価：4】
＜取り組み状況＞
本校では学校保健安全法に則り、定期健康診断を例年４月または５月に実施し、学生の健康状態の把握に努め健康管理をしている。健康診断結果一覧には在学中の健康状態を記録し保管している。また、学校医が所属する医療機関は校舎徒歩 5 分内にあり、急患発生時も即時対応可能な体制を整備している。
新校舎移転にあたり、学生の体調不良等の初動対応強化のため、保健師、看護師等の常駐を検討している。

＜今後の課題＞
特になし。

---

5-7　学生の生活環境への支援は行われているか　【自己評価：4 】
＜取り組み状況＞
遠隔地から入学する学生に対する支援として、本校は複数の学生寮事業者と提携し、寮長常駐、食事提供、家具・家電・布団リース、インターネット完備等、安心・安全な居住環境を学生に提供している。提携寮ではオープンキャンパスに合わせた寮見学会を実施し、遠隔地からの入学希望者や父母等の不安解消に努めている。加えて、実績ある学生マンション業者との連携により、寮以外の住居ニーズにも対応している。

＜今後の課題＞
特になし。

---

5-8　課外活動に対する支援体制は整備されているか　【自己評価：4】
＜取り組み状況＞
課外活動は学校全体の行事である学園祭やスポーツ大会、クラブ・サークル活動に加え、施設やイベント見学など多岐にわたって実施をしている。こうした活動は、クラス内での人間関係の構築や勉学意欲の向上につながることはもちろんであるが、大きな目的として基礎的・汎用的能力の育成ということもあるため、学校としては全般的に推奨する体制を整えている。
課外活動の中で学校全体の行事として実施しているものは、年間の行事計画内に位置付けている。行事によっては、スポーツ大会や卒業研究制作展など、職員や講師を担当として配置し、直接実行をするものもあれば、学園祭のように学生主体で企画・実行させ、そのサポートに入ったりするものもある。
スポーツ大会は例年、スポーツセンターでソフトバレーボール大会を実施している。同時に開催している「コスプレコンテスト」も学生たちには好評で、様々な衣装に身を包んだ学生が大会を盛り上げてくれた。
学園祭はゲームサイエンス学科の作品展示、CG スペシャリスト学科の顔模写 TC コンペなど日頃の学

習成果を発表する場はもちろん、教職員による「チャリティ餅つき大会」「コスプレ大会」「ビンゴ大会」なども実施している。卒業生や父兄の来場も多く見られた。

クラブ・サークル活動については、学生便覧において活動規程が学内に周知され、その規程に基づいた活動については、一定の活動費が学校より支給されている。令和 7 年（2025）年度においては 1 サークル（シミュレーション部）が新規で活動を開始した。活動歴のあるくラブ・サークル活動は以下のとおり。

ゲーム開発研究部、遊創同好会、TRPG 部、HAPPY★MUSIC、さざなみ開発、チーム出 the 印、
シミュレーション部

＜今後の課題＞

2026 年度は新校舎に移転したこともあり、学園祭などは周辺住民にも参加していただき、地域との交流がどの程度図れるかが課題である。

---

5-9　学生の父母等と適切に連携しているか 【自己評価：3】

＜取り組み状況＞

本校は専修学校専門課程であり入学時点で全学生が成年に達しているが、学生の学習および就職等に関する目標達成のためには父母等との適切な情報共有と連携が重要であると考えている。このため、学校運営および学生生活への理解を深めていただく機会として、年 2 回、父母等を対象とした学校説明会を実施している。説明会では、学校生活の概要、学校の基本的な規則、就職活動等について説明している。

また、学生個々の状況については学校説明会の機会に希望者を対象に個人面談を実施し、学習状況や就職活動の状況を説明するとともに、父母等からの相談にも応じている。さらに、無断欠席が発生するなど学校生活上の課題が認められた場合には、その都度クラス担任が父母等へ状況を連絡し、必要に応じて個別面談を実施するなど、家庭と連携して注意喚起や支援につなげている。

父母等への定期的な情報提供については、学事システムに紐づく掲示板機能を活用し、ログイン対象者に対して次の内容を発信している。

・月初：当月の行事予定・連絡事項など
・年 4 回（前期終了時、後期終了時、および各中間期）：授業の出欠席状況
・年 2 回（前期終了時、後期終了時）：取得単位状況

なお、本機能にて発信したメッセージの閲覧（開封）状況は、1 週間以内約 65%、1 か月以内役 80%となっている。

＜今後の課題＞

学事システムの掲示板機能については、現状の父母等の登録率が約 50%程度にとどまっており、すべての父母等が利用しているわけではない。そのため、より円滑な情報提供を行うために、父母等の登録率向上に向けた取組を検討する必要がある。

---

5-10　卒業生への支援体制はあるか 【自己評価： 4 】

＜取り組み状況＞

卒業後も継続的に支援するため、卒業生を対象とした就業支援サービスを実施している。

本サービスでは、学内の求人情報サイトを通じて就業支援サービスを希望した卒業生向けにも求人情報を公開し、転職や再就職を希望する卒業生が必要な情報を得られる体制を整えている。

また、希望する卒業生に対しては、キャリアコンサルタントによる個別のキャリアアドバイスを実施し、具体的な進路選択を支援している。あわせて、応募書類の確認や面接対策等も利用可能としており、卒業後も必要に応じて相談できる支援体制を設けている。

＜今後の課題＞

特になし。

---

5-11　社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか　【自己評価：3】

＜取り組み状況＞

本校は、専修学校設置基準に基づき、普通教室・コンピュータ実習室・図書室・保健室・就職情報センター・カウンセリングルーム等の教育環境を適切に整備している。

また、教育活動で使用するパソコンには学習上必要な多くのソフトウェアを導入し、教育機関向けライセンス契約を活用することで、最新の学習環境を維持している。

教育上必要な施設・設備については、毎年度、教育内容や業界動向を踏まえて優先順位を検討し、計画的な更新・整備を実施している。

また、リカレント教育への取り組みとして、令和 7（2024）年に Web デザイン学科が「専門実践教育訓練講座」を申請し、指定された。

＜今後の課題＞

特になし。

---

６．教育環境

（１）評価

| | 評 価 項 目 | 評価 |
|---|---|---|
| 6-1 | 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか | 4 |
| 6-2 | 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか | 3 |
| 6-3 | 学内外の実習施設、企業実習先や海外研修先等について十分な教育体制を整備しているか | 4 |
| 6-4 | 防災に対する体制は整備されているか | 4 |
| 6-5 | 定期的に防災訓練は実施されているか | 4 |

評価…　４：適切、　３：ほぼ適切、　２：やや不適切、　１：不適切

（２）取り組み状況および課題と改善策

6-1　施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか　【自己評価：4】

＜取り組み状況＞

設備・施設は設置基準を順守し、全学科に必要な教室、実習室、講義室を有している。また、PC については 5 年程度を目安に教室内全台を更新して、学生たちに最新の学習環境が提供できるように努めている。情報処理系の学科やゲームサイエンス学科に対しては、学校以外でも学習ができるように学生一人ひとりに専用 PC を支給し、Web デザイン学科についても Macbook ノート PC を貸与ししている。

なお､校舎の老朽化に伴い､2026 年 4 月には名古屋駅西口に新校舎を建設のうえ移転が決定している。

＜今後の課題＞

現在の校舎でも問題なく学校運営はできているが、新校舎に移転することで、学習環境等の変化に応じた教育内容の提供が必要と考える

---

6-2　関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか　【自己評価：　3　】

＜取り組み状況＞

関連分野における実践的な職業教育を重視し、各学科において企業や業界関係者と連携した教育活動を体系的に位置づけている。

具体的には、各学科で企業による作品講評を実施。学生が業界の視点から自身の制作物に対する評価や改善点を得られる機会を設けている。これにより、授業内で学んだ知識・技術を実務水準に照らして確認し、専門性の向上につなげている。

ゲームサイエンス学科では令和 7（2025）年度 Tozai Games との連携授業としてロードランナーアイデアコンテストを実施。Web デザイン学科では、フィールドワークの一環として、地域の個人店等から

要望をヒアリングし、実際に Web サイトを制作する取り組みを毎年実施している。実在する依頼者の課題や要望を踏まえて制作を行うことで、技術力だけでなく、課題発見力、提案力、コミュニケーション力の育成を図っている。さらに、令和 7（2025）年度においては愛知県高浜市の要請（官学連携）による地域課題の解決にも取り組み、学生が学修成果を社会に還元する機会を設けた。加えて、企業主催のインターンシップについては、実務理解や職業観の形成において教育効果が高いものと考え、学生に対して積極的に情報提供を行っている。

＜今後の課題＞

0-6 でも記載したように、一部学科を除き、インターンシップは企業主催のものが中心となっている。学生への機会提供のためにも、学校から企業へ働きかけ、教育目的や学修成果を明確にしたインターンシップを実施できる仕組みを長期的に形成する必要がある。

---

6-3　学内外の実習施設、企業実習先や海外研修先等について十分な教育体制を整備しているか
【自己評価： 4 】

＜取り組み状況＞

学内の PC は定期的なリプレイスを行い、できる限り最新のハード環境を整えている。また、各学科の教育内容に応じて、必要なソフトウェアを随時導入し、学生が専門的な学びを深められる整備を行っている。

海外研修については、フィンランド及びシンガポールの学校と提携し、海外への交換留学を実施している。現地では、制作活動を中心としたプログラムを通じて、異文化理解を深めるとともに、専門知識の深化、チーム制作能力の向上を図っている。これにより、学生が国外の多様な価値観や制作環境に触れ、国際的な視野を養う機会を設けている。

また、学内施設については、新校舎において、学生が自由に予約利用できるスペースを提供し、授業外でも自主的に制作や研究活動に取り組める環境を整え、あわせて、専門的な学びを深めるサークル活動等も支援し、学生の主体的な学修を促進する予定である。

さらに、学外においては、愛知県最大のスタートアップ支援施設『STATION Ai』に入居し、企業や起業家との接点を持てる環境を整備している。

＜今後の課題＞

特になし。

---

6-4　防災に対する体制は整備されているか 【自己評価：4 】

＜取り組み状況＞

消防計画において、火災・震災発生時の対応、また自衛消防隊組織について定めている。災害時の（あるいは災害の可能性に関する）情報伝達については、職員スタッフへは職員ポータルサイトによる通報連絡網を、教員にはエマージェンシーコールを整備して万全の体制を整えている。学生へは警報発令時や震災時の対処方法などを学生便覧上に規定して緊急時に備えている。

また、災害時の様々な状況を想定して、学生、教職員が帰宅困難となった際に対応できるよう、飲料水・食料・救急用品・衛生用品などの防災備蓄品を常備している。なお、2026 年 3 月には校舎移転に伴い、消防計画の見直しを実施した。

＜今後の課題＞

新校舎に合わせた防災体制の最終確定と全職員・教員・学生への周知・訓練を速やかに実施し、緊急連絡網・備蓄配置・帰宅困難者対応などの運用を検証することが課題である。

---

6-5　定期的に防災訓練は実施されているか　【自己評価：4】

＜取り組み状況＞

毎年 7 月～11 月にかけて、学生誘導を中心とした避難訓練と教職員向けの消防設備操作訓練を各 1 回実施している。避難訓練では災害発生時の行動シミュレーションを通じて避難動線の確認を行い、職員訓練では警報発生時の初動対応や消火器など設備の操作訓練を実施している。いずれの訓練も所轄消防署へ届け出を行い、防災意識の向上と初動対応の迅速化に努めている。

＜今後の課題＞

新校舎への移転に伴い、避難経路・集合場所・避難方法の周知を徹底するとともに、教職員訓練メニューの見直しが必要。

７．学生の受入れ募集

（１）評価

| | 評 価 項 目 | 評価 |
|---|---|---|
| 7-1 | アドミッションポリシーを策定し、自校関係者に周知するとともに社会に公表しているか | 4 |
| 7-2 | 学生募集活動は、適正に行われているか | 4 |
| 7-3 | 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | 3 |
| 7-4 | 入学選考基準を明確化し、適切に適用しているか | 4 |
| 7-5 | 学納金は妥当なものとなっているか | 4 |
| 7-6 | 入学辞退者に対し授業料等について適正な扱いを行っているか | 4 |

評価…　４：適切、　３：ほぼ適切、　２：やや不適切、　１：不適切

（２）状況および課題と改善策

7-1　アドミッションポリシーを策定し、自校関係者に周知するとともに社会に公表しているか

【自己評価：4】

＜取り組み状況＞

アドミッションポリシーを正式に策定し、募集パンフレットへ同封の入学要項への記載、公式 Web サイトへの掲載、募集イベント（入試説明会）での説明を実施している。入学希望者・保護者向けには基本的な周知ができている状況である。

＜今後の課題＞

特になし。

---

7-2　学生募集活動は、適正に行われているか 【自己評価：4】

＜取り組み状況＞

本校は入学広報チームを中心に、高校主催ガイダンスや会場相談会での学校紹介、続いて本校主催のオープンキャンパス・体験入学へ誘導することで、志望者が学校と学びの適合性を確認したうえで出願する流れを重視している。近年は進学サイトや SNS 等の Web 経由での情報収集が増加しているため、進学業者の Web 媒体・広告や SNS 発信の充実も図りつつ、来校を主軸にした実体験重視の方針を維持している。保護者向け説明会も実施し、志望者の理解促進とミスマッチ防止に努めている。

＜今後の課題＞

特になし。

---

7-3　学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか 【自己評価：3 】

＜取り組み状況＞

パンフレットや公式 Web では、カリキュラムの内容に加え、在校生の声、制作作品、学外コンテストの受賞実績、校内講演実績など具体的事例を用いて「業界で通用する技能を身につけられる」ことを丁寧に伝えている。対面では年間多数のオープンキャンパス（令和 7 年度：29 回）や体験入学（同：8 回）を実施し、ミニ講座や 90 分の体験授業で入学前後のイメージ差を減らす工夫を行っている。広報方針としては来校体験を重視し、情報はパンフ・Web・説明会で統一的に提示している。

| 媒体 | 内容 |
|---|---|
| 入学案内書 | ［学校案内］<br>・サポート体制、就職実績、コンテスト実績、教育システム、国際交流、学校行事、学生生活<br>［学科案内］<br>・学科の特長、学習内容、カリキュラム、実習環境、時間割、めざす職業、トピックス、学生作品、就職実績、卒業生メッセージ |
| 入学要項 | ・募集学科、入学定員、出願方法、学費、入学方法（出願区分／選考日程／特待生制度）、学費、学費支援制度、奨学金制度、各種教育ローン、入学願書　など |
| WEB サイト | ［ホームページ］<br>・本校の特長、学科紹介、入学案内、就職・資格、キャンパスライフ、国際交流、ニュース＆トピックス、教員募集、資料請求、イベント申込　など<br>［ＳＮＳ］<br>・X(旧 Twitter)、LINE、Instagram、YouTube |
| 外部媒体 | ［進学業者情報誌］<br>・学校・学科紹介、学費、学生情報　など<br>［進学業者情報サイト］<br>・学校・学科紹介、学費、学生情報　など |

（参考：情報発信媒体 一覧）

＜今後の課題＞

掲載情報の鮮度維持と主張の裏付け強化が必要である。具体的には（1）掲載データ（就職率・資格取得率・入賞実績等）を最新化する運用ルール、（2）各表記の出典・集計時期を明示する仕組み、が求められる。これにより入学希望者・保護者への説明の信頼性を高める。

---

7-4　入学基準を明確化し、適切に運用しているか 【自己評価：4 】

＜取り組み状況＞

本校は「トライデントコンピュータ専門学校 入学要項」に基づき、日本人・留学生それぞれの出願資格・入学方法・選考方法を明確に定め、出願時は定められた選考フローに従って判断を行っている。入学選考は本校の求める学生像（学修意欲・基礎的技能・人物）との整合性を重視し、各種入学方法に対応した運用を実施している。

＜今後の課題＞
特になし。

---

7-5　学納金は妥当なものとなっているか 【自己評価：4】
＜取り組み状況＞
本校では各学科の教育内容・教育環境に応じて、入学金、授業料、施設設備費、実習費等を年度ごとに見直し、翌々年度の学納金を決定している。学費設定にあたっては、他校の学費水準も参考とし、専門学校事業本部会議および理事会での審議・承認を経て決定している。新校舎整備やエネルギー価格・物価上昇を踏まえ、令和 6 年度からの学費改定を実施した。入学要項には学納金に加え、参考となる諸経費を明示することで、入学志願者や在校生が資金計画を立てやすいよう配慮している。

＜今後の課題＞
特になし。

---

7-6　入学辞退者に対し授業料等について適切な取り扱いを行っているか 【自己評価：4 】
＜取り組み状況＞
入学辞退時の授業料等の返還に関しては、入学要項に明記し適宜返金対応を実施している。

＜今後の課題＞
特になし。

---

8．財務

（1）評価

| | 評 価 項 目 | 評価 |
|---|---|---|
| 8-1 | 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | 4 |
| 8-2 | 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | 4 |
| 8-3 | 財務について会計監査が適正に行われているか | 4 |
| 8-4 | 財務情報公開の体制整備はできているか | 4 |

評価…　4：適切、　3：ほぼ適切、　2：やや不適切、　1：不適切

（2）状況および課題と改善策

8-1　中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 【自己評価：4】

＜取り組み状況＞

財務基盤は安定させるには入学者の安定的な確保が重要と考えている。その意味では本校は入学者を適切に獲得できている。また中途退学者についても低い数値を維持できており、経費支出についても見直しを行い可能な範囲での経費節減に努めていることから、現在のところ財政基盤は安定しているといえる。

＜今後の課題＞

特になし。

---

8-2　予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 【自己評価：4】

＜取り組み状況＞

学校運営に関わる予算については校長が中心となって作成している。あらかじめ検討・承認された備品購入や施設設備の補修などに対する相当額を予算化し、本部会議で検討したうえで概算予算が決定されている。予算執行については河合塾グループの経理規定・予算管理規定に従い、承認された予算内で執行担当者が所属長および校長の承認を受けて執行する。実績管理については毎月河合塾グループのシステムにて公開される収支実績で確認し管理をしている。2026 年（令和 8 年）は新校舎に移転が決定しているため、2025 年度については特別予算編成を行いより精度高く収支管理に努めた。

＜今後の課題＞

特になし。

---

8-3　財務について会計監査が適正に行われているか 【自己評価：4】

＜取り組み状況＞

河合塾グループの専門学校事業部門として、監査法人による会計監査を受け、適正に実施されているとの評価を得ている。また河合塾グループの監査室による内部監査も毎年実施され、適正との報告を得ている。

＜今後の課題＞

特になし。

---

8-4　財務情報公開の体制整備はできているか　【自己評価：4】

＜取り組み状況＞

義務化されている財務状況の公開については、河合塾グループの一員として、法人事業報告と財務状況をまとめ、本校のホームページ上に公開している。

＜今後の課題＞

特になし。

9．法令等の順守

（1）評価

| | 評 価 項 目 | 評価 |
|---|---|---|
| 9-1 | 法令、専修学校設置基準等の順守と適正な運営がなされているか | 4 |
| 9-2 | 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | 4 |
| 9-3 | 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか | 3 |
| 9-4 | 自己評価結果を公開しているか | 4 |
| 9-5 | 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか | 4 |
| 9-6 | 学校関係者評価結果を公表しているか | 4 |
| 9-7 | 教育活動等に関する情報公開が適切にされているか | 4 |

評価…　4：適切、　3：ほぼ適切、　2：やや不適切、　1：不適切

（2）状況および課題と改善策

9-1　法令、専修学校設置基準等の順守と適正な運営がなされているか 【自己評価：4】

＜取り組み状況＞

河合塾グループ法務部の監修のもと、専修学校設置基準を順守し、関係する各法令に従い、申請・届け出・報告などの諸手続きを遅延なく確実に実施している。規定などの新設あるいは変更などの周知については、法令順守に関する内規を定めており、学内会議などにおいて、各セクションに漏れなく伝わるよう努めている。教育施設運営に係る法令などが適用される具体的案件については、その管理対応をアナウンスし、周知・順守を徹底している。

＜今後の課題＞

特になし。

---

9-2　個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか 【自己評価：4】

＜取り組み状況＞

個人情報保護については、学校法人 河合塾学園で制定している「個人情報保護方針」をはじめ情報管理基本規定や各種ガイドラインにもとづき、業務遂行にあたっている。個人情報に該当する情報を収集する際は、主旨や目的を説明したうえで承諾を得て取得している。また万が一事故が発生した倍は河合塾グループとして設置されている「情報セキュリティ委員会」に報告のうえ適切な対応をとれる体制が整っている。

＜今後の課題＞
特になし。

---

9-3　自己評価の実施と問題点の改善を行っているか 【自己評価：3】
＜取り組み状況＞
学校の自己点検・自己評価は、学校運営において日常業務の振り返りや日頃遂行できていない事項に対するチェックを行い、改善を講じるのに最適な機会であると考えている。
また、学校でまとめた自己点検・自己評価報告書については学校関係者評価委員会の主要議題として評価基準や評価の妥当性に関する提言や学校改善に取り組む方向性およびその施策について意見をいただいている。いただいた全ての意見・コメントは学校内の会議の場において検討のうえ適宜実行にうつし、次年度の自己点検・自己評価に反映させるように努めている。これらの取り組みにより適切に取り組めていると考える。

＜今後の課題＞
昨年度からの課題である教育目的・育成人材像に関する再定義中となっており早急に取り組む必要ある。

---

9-4　自己評価結果を公開しているか 【自己評価：4】
＜取り組み状況＞
自己評価結果については、「自己点検・自己評価報告書」として、毎年ホームページ上に適切な時期に公開をしている。

＜今後の課題＞
特になし。

---

9-5　学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか【自己評価 4】
＜取り組み状況＞
学校関係者評価員会は年 1 回 8 月に開催している。作成した自己点検・自己評価表をもとに各委員の評価について学校関係者評価委員会で意見をもらい学校改善に役立てている。
なお、学校関係者評価委員については現在、企業・業界団体・高校教員のみとなっているため 2026 年度以降は地域住民や父母等も構成員を広げた実施体制に整備していく予定である。

＜今後の課題＞
特になし。

---

9-6　学校関係者評価結果を公表しているか【自己評価 4】

＜取り組み状況＞

学校関係者評価結果については、「自己点検・自己評価報告書」とともに、毎年ホームページ上に適切な時期に公開をしている。

＜今後の課題＞

特になし。

---

9-7　教育活動等に関する情報公開が適切になされているか 【自己評価：4】

＜取り組み状況＞

教育活動に関する情報公開として、文部科学省「職業実践専門課程」別紙様式 4、高等教育の修学支援制度の確認要件書類をホームページに公開している。また、日々の教育活動や教育成果についてはホームページや SNS を通じて公開を行っている。ここ数年は SNS の発信を積極的に行い、本校の教育活動について発信している。

＜今後の課題＞

特になし。

---

１０．社会貢献・地域貢献

（1）評価

| | 評 価 項 目 | 評価 |
|---|---|---|
| 10-1 | 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか | 4 |
| 10-2 | 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか | 3 |
| 10-3 | 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか | 4 |
| 10-4 | 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか | 3 |

評価…　4：適切、　3：ほぼ適切、　2：やや不適切、　1：不適切

（2）取り組み状況および課題と改善策

10-1　高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか

【自己評価：4 】

＜取り組み状況＞

本校は高校生・高校教員向けの支援を継続的に実施している。具体的には、IT パスポート対策・情報処理技術者試験対策セミナーを本校・浜松・津の 3 会場で年 2 回（冬は一部会場制限）開催し、Web・IT 系分野では年間約 10 回、高校へ教員を派遣して授業支援を行っている。高校の新設コース向けに本校教員によるツールレクチャーを実施したほか、中学校の上級学校見学会も複数校受け入れ、キャリア教育の早期支援に努めている。

＜今後の課題＞

特になし。

---

10-2　学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか 【自己評価：3】

＜取り組み状況＞

河合塾グループは、より良い社会の実現をめざし、社会の責任ある一員として地域の発展に貢献するさまざまな活動を推進している。

**① 児童養護施設の高校生への進学支援活動**

河合塾グループでは、児童養護施設で生活する高校生に対し、進路相談や大学入試情報の提供、全統模試の無料受験などの進学支援活動を継続して実施している。教育機会の確保や進路選択の支援を通じて、社会的な教育格差の是正に貢献している。

**② 公益財団法人 河合記念奨学財団による奨学支援活動**

河合塾グループでは、昭和 57(1982 年)に設立された公益財団法人河合記念奨学財団を通じて、経済的理由により修学が困難な愛知県内の高校生への奨学金給付事業を継続して実施している。本活動は将来を担う人材育成に寄与する社会貢献活動として長年継続されている。

※2025 年度までの採用奨学生は 1611 名

**③ キャリア教育支援・学校見学受入れ**

中学校からの依頼に応じた上級学校見学の受入れを継続して実施している。また、令和 6（2024）年度より登録した「ナゴヤキャリアタイムサポーター」として、小・中・高校生を対象としたキャリア教育支援活動に取り組み、年間 3～4 件の依頼が入っており、専門分野に関する学びや職業理解の機会を提供している。

**④ 高浜市との官学連携事業**

本校の教育資源や学生・教職員の専門性を活用し、高浜市との官学連携事業として「町内会加入促進 PR ポスター」制作に Web デザイン学科 2 年生全員が地域活性化に向けた取り組みを実施した。行政と教育機関が連携することで、学生に実践的な学習機会を提供するとともに、地域社会への貢献を図った。

＜今後の課題＞

高浜市との官学連携事業をモデルケースとして、他自治体や地域団体との連携機会を図る。

---

10-3　地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか

【自己評価：4】

＜取り組み状況＞

本校では、地域社会への貢献および情報教育の普及を目的として、高校生および高校教員を対象とした公開講座を継続的に実施している。

令和 7（2025）年度においても、国家資格である基本情報技術者試験および IT パスポート試験の対策講座を名古屋・津・浜松の 3 会場で計 10 講座開催し、233 名が参加した。講座は全て無料で実施し、地域の情報教育推進および資格取得支援に取り組んだ。

講座実施後のアンケートでは、「とても有意義だった」「有意義だった」と回答した参加者が大多数を占めており（次ページ参照）、参加者の満足度は高い結果となった。アンケート結果や参加者からの意見については次年度以降の講座内容や運営方法の改善に活用している。この公開講座を通して、高校生・教員に対する学習機会の提供を通じて、地域社会への教育支援活動を継続して実施している。

また、リカレント教育への取り組みとして、令和 7（2024）年に Web デザイン学科が「専門実践教育訓練講座」を申請し、指定された。

**公開講座開催実績**

【2025年度】＊（）は2024年度数値

| 日程 | 会場 | 基本情報<br>技術者試験 | ITパスポート |
|---|---|---|---|
| 8月8日 | 名古屋会場（本校） | 27名 | 64名 |
| 8月27日 | 津会場 | 9名 | 10名 |
| 8月28日 | 浜松会場 | 34名 | 1名 |
| 3月23日 | 浜松会場 | 14名 | 2名 |
| 3月27日 | 名古屋会場（本校） | 30名 | 42名 |
| 合計： | | 114名<br>（119名） | 119名<br>（101名） |
| とても有意義・有意義： | | 95%<br>（100%） | 99%<br>（94%） |

＜今後の課題＞

参加者数の拡大に向けて広報活動の充実を図るとともに、オンライン開催やハイブリッド開催などの受講形態について検討していく。さらに、地域の教育機関や自治体との連携を強化し、公開講座だけでなく地域貢献活動など、より幅広い学習機会の提供につなげていくことが課題である。

---

10-4　学生のボランティア活動を奨励、支援しているか　【自己評価：3】

＜取り組み状況＞

河合塾グループでは、地域社会への貢献を目的とした社会貢献活動を推進しており、本校でもグループの活動や愛知県等から提供されるボランティア情報をポスター掲示などにより学生へ周知している。

令和７（2025）年度は、全国エンタメまつり（岐阜県）に２名、学生がボランティアとして参加した。ただ、令和７（2025）年度は、河合塾が実施していた、カンボジア教育支援活動および使用済み切手・トレーディングカード等を活用した教育支援活動が終了となったこともあり、ボランティア機会は縮小した。

＜今後の課題＞

ボランティア募集の情報を整理、提供し学校として活動を活性化させていくことが課題である。

---

１１．国際交流

（１）評価

| | 評　価　項　目 | 評価 |
|---|---|---|
| 11-1 | 国際交流を行っているか | 4 |

| | | |
|---|---|---|
| 11-2 | 留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか | 4 |

評価…　4：適切、　3：ほぼ適切、　2：やや不適切、　1：不適切

（2）取り組み状況および課題と改善策

11-1　国際交流を行っているか 【自己評価：4】

＜取り組み状況＞

本校が定期的、継続的に国際交流を実施している海外の学校としてはナンヤンポリテクニック(シンガポール)、カヤーニ応用科学大学(フィンランド)の各校があげられる。コロナ禍以前においては 2 ケ月～3 ケ月の期間、文化交流、共同学習を目的として相互に学生を派遣していた。新型コロナ感染症が広まって以降、互いの国を行き来することが難しくなり、令和 3(2021)年度からはオンラインを活用した交流を試み、令和 5(2023)年度からは直接の国際交流を再開できている。本交換留学では各提携校との取り交わしにより、学生による留学先の授業料負担はないものとし、活発な交流を促進している。

また、前記二校の他に、デポール大学(アメリカ)から短期での来校を受け入れている。外国人学生の受け入れは、本校の学生にとって異文化に接する身近な機会であり、また、広い意味においては人間力、あるいはコミュニケーション能力の向上に資するところ大なるものがあり推進していきたいと考えている。

なお、令和 7（2025）年度において実施した国際交流概要は以下のとおり。

・デポール大学から本校へ
　6 月 18 日～6 月 20 日　全 8 名
・ナンヤンポリテクニックから本校へ
　9 月 29 日～11 月 28 日　全 10 名
・カヤーニ応用科学大学から本校へ
　9 月 29 日～11 月 28 日　全 7 名
・本校からナンヤンポリテクニックへ
　8 月 17 日～9 月 27 日　全 3 名
・本校からカヤーニ応用科学大学へ
　8 月 17 日～9 月 28 日　全 2 名

＜今後の課題＞

スカラシップ型の海外留学の検討が必要である。

---

11-2　留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか 【自己評価：4】

＜取り組み状況＞

【正規入学留学生】

入学する留学生の受入れにあたっては、日本人の学生と同様の面接試験に加え日本語能力を確認し、日本人と同等の環境で授業の受講が可能かを確認のうえ受入れを行っている。留学生に対しては 4 月に

留学生オリエンテーションを実施し、日本語能力やアルバイトに関する確認を行い、これらの情報は担任と共有して指導に役立てている。入国管理局へは、4 月、5 月、11 月に在籍管理に関する報告を行い「適正校」として認定されている。

【国際交流のための一時的受入れ留学生】

短期間の受け入れの際に事前に留学生の希望職種や健康状態、アレルギーの有無等の確認を行い、滞在中に宿泊する施設の手配を本校にて行い、期間中は施設責任者と本校担当者にて連絡を取れる状態としている。また、期間中は毎日出席管理をし、体調不良等の訴えがあった場合は症状によって病院を紹介する等の対応を取っている。

＜今後の課題＞

特になし。

---

以上